

判定区分の改定について

2012年1月31日

人間ドック判定・指導ガイドライン作成委員会
委員長 和田高士

人間ドック判定・指導ガイドライン作成委員会では2008年策定された判定区分について、2010年4月より見直しを行ってまいりました。その検討案を2011年10月25日から日本人間ドック学会のホームページに提示し、1か月間のパブリックコメント募集期間に多くの先生方よりご意見を賜りましたこと御礼申し上げます。ご意見を検討しさらなる改定を加え、ここに判定区分を提示いたします。各施設におかれましては、遅滞なく改定されるようお願いいたします。また今回の改定にあたり委員会外部の有識者からのご意見をもいただき、厚く御礼申し上げます。

なお画像検査判定区分につきましては、2012年4月以降より再検討を開始いたしますので現行は「健診判定基準ガイドライン【改定新版】」（文光堂2008年9月発行）をご利用ください。

【改定箇所】

- 1) 判定区分C1, C2の区分の撤廃し, C(要経過観察・生活改善)。従前では値によりC1, C2区分が設定されていたものは併合とする。
(例:収縮期血圧C1 140-149, C2 150-159はC140-159となる)
- 2) 値の高低, 所見によつてのD1要治療, D2要精検のいずれを採用するかは任意とする。(例:中性脂肪 29以下はD1, 400以上はD2であったが, 29以下, 400以上の場合は各施設でD1, D2いずれかの判定とする)
- 3) BMI: 25kg/m²以上はB区分, C区分の両方に存在したがC区分とする。
- 4) 腹囲: 基準範囲上限超がB区分, C区分の両方に存在したがC区分とする。
- 5) 心拍数の判定区分の新規設定。
- 6) 視力の判定区分の改定(国際基準値の導入)
- 7) 聴力は実数値による判定
- 8) 呼吸機能検査値は小数点1ケタ表記に変更
- 9) eGFRは小数点1ケタ表記に変更
- 10) 尿酸のC判定区分の追加(腎性低尿酸血症の尿路結石, 運動後腎不全リスク考慮)
- 11) AST, ALT, GGTの単位をIU/LからU/Lに変更
- 12) 空腹時血糖とHbA1c(JDS)の併合判定に改定(糖尿病治療ガイド2010考慮)

- 1 3) 基本検査項目から血清鉄が削除されたため、非掲載とする
- 1 4) 赤血球区分の改定（赤血球増加症診断の考慮）
- 1 5) ヘマトクリット区分の改定（赤血球増加症診断の考慮）
- 1 6) **CRP** は小数点 2 ケタ表記に改定
- 1 7) 子宮頸部細胞診の改定（ベセスダ分類の導入）
- 1 8) 脚注の改定